

受験番号

平成29年度

早稲田摂陵高等学校入学試験問題

(2月10日実施 本校会場)

# 国語

## 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
2. この問題冊子は12ページまであります。
3. 解答はすべて所定の解答用紙に記入してください。
4. 解答用紙は問題冊子の中にはさんであります。
5. 特に指示のない場合、句読点・記号とも一字と数えます。
6. 質問があるときは、静かに手をあげてください。
7. 問題冊子にも受験番号を記入し、試験が終わったら提出してください。

次の①～⑥の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。また、⑦～⑩の傍線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 工場に電力をキョウキユウする。
- ② ヨーロッパ諸国をレキホウする。
- ③ しかるべくゼンシヨします。
- ④ 目標達成はシナンのわざだ。
- ⑤ 友だちの車にビンジヨウする。
- ⑥ 対策を十分にケントウする。
- ⑦ チームの士気を高揚する。
- ⑧ 事業に潤沢な資金が必要だ。
- ⑨ 論文の一部を抜粋する。
- ⑩ 悔恨の思いにかられる。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、設問の都合上、文章を改変した箇所があります。

「あたし、こんど、生徒会の  
① ことになったよ」

とおねえちゃんの歌子がいい出したのは、夏休みがおわり、学校が始まってすぐのことだった。

お盆がおわると同時に、みじかい夏休みもおわってしまうのだが、チヅルはまだ夏休みボケで、学校にいつでもブーツとしていることが多かったから、歌子が書記に立候補すると聞いて、

（中学校は、休みがおわったらすぐに選挙なんかするのか。いそがしいなあ）  
とびっくりしてしまった。

「そうか。書記か。そういうのは、一年生が出ていいのかい」

オトーサンが嬉しそうにいい、ご飯をよそっていた母の清子も、

「一年生のうちから、あんまり目立つことすると、まずいんじゃないの」

と面倒臭そうにいいながら、顔はすっきり、にこにこ笑っているのだった。

② そういうのは、もうまったく、歌子が小学校の卒業式で答辞を読むことになったときとおなじ態度だった。

「あしたから、推薦人や選挙対策本部の人たち、ウチに集まることになったから」

と歌子はなんでもないのでいい、とたんにチヅルはわくわくした。③

選挙タイサク本部というのが④（本式の感じがして、やっぱり中学校はちがうとすっきり感心させられてしまった。⑤

翌日、チヅルは掃除当番をおえるなり、家にとんで帰った。

いつものようにハイシャ車庫や材木置き場で遊ぶどころではなくて、なんとしても選挙タイサク本部というのを見てみたいのだった。家に帰ってみると、歌子のほうが先に帰ってきていた。

二階の部屋を掃除しているらしく、何度も階段を上りおりしては、忙しそうにしている、チヅルなんか目に入っていないようだった。

⑥ 歌子の興味をひきたくて、茶の間のソファに寝そべったり、でんぐり返しをしたり、逆立ちをしたりしてもんでダメで、そのうち歌子がカルピス

をつくり出したので、チヅルは思いあまって、台所と茶の間をしきるガラス引き戸によりかかって、

「おねえちゃん、チヅルのもつくって」

と甘ったれた声でいった。

カルピスが欲しいのはほんとだったが、それよりも歌子にかまってほしいのだった。

「なに、ほしいの？ 自分でつくんなさいよ。あたし、忙しいんだから」

歌子はあつさりといって、お盆にカルピスのはいったコップをのっけて二階にいつてしまった。

悔しくてふくれていると、ふと台所の茶ダンスの中に、うす焼きセンベイがお菓子鉢はちにはいつているのが見えた。

いつもだったら、食べていいといわれてないお菓子は食べないのだけれど、なんとなく、<sup>⑦</sup>おもしろくない気分だったので、チヅルは思いきってガラス戸を

あけて、うす焼きセンベイを五、六枚つかんで、やけっぱちのようにぼりぼりと食べた。

二階からおりてきた歌子は、茶ダンスの前にすわりこんでセンベイを食べているチヅルを見て、

「チヅル、あたしが買ってきたお菓子、かってに食べちゃダメじゃない！」

とどなった。

「きてくれるみんなのために買ったのに。お母さんにいつけるよ」

歌子は<sup>⑧</sup>うわずった声でいつて、チヅルを押しつけて、茶ダンスの中のお菓子鉢を取りだし、さつさと二階にもつていこうとする。

階段を五、六段のぼったところで、

「チヅル、外に遊びにいつていだよ。友だちがきても、浮かれあがつて、話に入つてきたらダメだよ。みんな、だじな用事してくるんだから」

きびきびといつて駆けあがつていつた。

<sup>⑨</sup>チヅルはぼかんと見上げていつたが、ふいに目じりに涙が浮かんでいつた。

（おねえちゃんは、チヅルより<sup>⑩</sup>のほうがだじなんだ）

と思つと、熱いお湯を飲んだように、喉のどから胸にかけてのあたりが、カツと焼けるようだった。

問一

①

に当てはまる八字の言葉を文章中から抜き出して答えなさい。

問二 傍線部②「そういう」とありますが、その具体的な内容として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

(ア)娘が高望みしているのを心配しているが、あえて明るく振る舞おうとしている。

(イ)娘が目を付けられるようなことをさせたくないが、それが言えずに笑ってごまかしている。

(ウ)娘がやっかいな事にかかわったと心配しているようで、実はとても喜んでいる。

(エ)娘がすることを応援したいが、面倒に巻き込まれたくないので、知らないふりをしている。

問三 傍線部③「チヅルはわくわくした」とありますが、この時の「チヅル」の気持ちを具体的に表現している箇所を文章中から抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問四 (ア)④ (イ)⑤ (ウ)⑥ (エ)⑦ (オ)⑧ に当てはまる最も適当な言葉を、次の(ア)～(オ)の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(ア)なんとか

(イ)いかにも

(ウ)まるで

(エ)だんだん

(オ)いつしか

問五 傍線部⑤「られ」と文法的に同じものを、次の(ア)～(エ)の文の二重傍線部から選び、記号で答えなさい。

(ア)先生が職員室に入って来られた。

(イ)たくさんの人に声をかけられた。

- (ウ) 仲の良い友だちと離れられない。  
(エ) かすかに秋の気配が感じられた。

問六 傍線部⑦「おもしろくない気分」とありますが、「チヅル」がそうだった理由を、文章中の言葉を使って十五字以内で答えなさい。

問七 傍線部⑧「うわずった声」の意味として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 興奮して高い調子になった声      (イ) 怒りにふるえた低い声  
(ウ) おそろおそろ話す小さな声      (エ) うわ言のように無意識に発する声

問八 傍線部⑨「チヅルはぼかんと見上げていたが、ふいに目じりに涙が浮かんできた」とありますが、この時の「チヅル」の様子や気持ちを具体的に説明したものと最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 歌子からまったく相手にされなかった事にあっけにとられて、急に悲しい気持ちでいっぱいになった。  
(イ) 歌子に言われたことの意味が理解できなくて、そんな自分がとても情けない気持ちになった。  
(ウ) 歌子が自分を無視し続けた事が許せなくて、突然腹立たしい気持ちがふつふつとわいてきた。  
(エ) 歌子とは立場が違いすぎることを思い知らされて、どうしようもなく悔しい気持ちがあふれてきた。

問九 ⑩に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- (ア) センペイ      (イ) お母さん      (ウ) カルピス      (エ) 選挙

## 三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

動物にせよ、植物にせよ、本来仕事はしない。ライオンは狩りをするが、狩りがライオンの仕事なのかというと、それはちよつと違うだろう。ライオンに職業を尋ねたって意味がない。ライオンは生きるために、狩りをし、肉を食らい、排泄を行う。休息もとるが、それは「オフ」ではない。すべてが生きるための営みなのだから、彼らの暮らしにオンもオフもないのである。もちろん、ウィークエンドも有給休暇も存在しない。

人間の暮らしだって、かつてはライオンと同じだったはずだ。働くという概念はなく、ただ

①

だけが存在していた。

昔話の中に登場する日本人々の暮らしぶりは、そこまではないにしろ、現代の私たちの生活とはかけ離れている。働くことと生きることは限りなく同義に等しく、人は生きるために日々ひたすら働かなければならなかった。加えて、昔々の日本では庶民が、一攫千金とか一発逆転とか、立身出世を成し遂げることは、殆ど不可能だっただろう。「それは、今だって同じだ」と思うかもしれないが、当時は今より格段にその可能性が低かったことは想像に難くない。なにせ、テレビも携帯電話もインターネットもない時代だ。自分を取り巻く環境以外に、別の環境があるということすら知らぬまま一生を終える人だって珍しくはなかっただろうし、それに、その頃の人々は身分や土地に厳しく縛られていた。

「もつと、自分に合った仕事があるんじゃないかなあ」なんて考える余地も、「もつと、ビッグになってやる」なんて発奮するチャンスも与えられていなかったのである。

それでも……それなのに、人間は夢を思い描くことができる。ひよつとして、幸運に見舞われはしまいかと妄想をふくらませたりする。ライオンはもちろん、妄想なんて抱かない。どれだけエサが捕れなくても、「ああ、どっかから獲物が降ってこないかなあ」なんて考えないし、「明日、目が覚めたら俺、狩りの達人になってねえかなあ」なんて思ったりもしない。

厳しい現実の中にあつて、幸福を夢見たり、虫のいい空想に耽るのは、人間の性であり、人間の才能だろう。だから、昔話では好んでサクセスストーリーが語られる。

桃太郎は、鬼ヶ島の鬼から宝物をぶんどつて、育ての親のお爺さんとお婆さんに恩返しをするし、花咲か爺さんは愛犬ポチのお陰で大判小判を掘りあてたばかりか、枯れ木に花を咲かせて殿様からの褒美まで手に入れる。岡山市に伝わる「こんぞう虫」という昔話も、思い掛けず福を手に入れた母子の物語である。昔々、備前の国に貧しい母子が(7)暮らししていた。朝から晩まで、働いても働いても暮らしは一向楽にならず、そのうえ、ある年、母親が病に臥せて

しまった。いよいよ生活に窮した母子は、相談のうえ、親戚の権三おじにお金を借りに行く。一度は嫌々ながら銭百文を投げ与えた権三だが、年越しの金の工面がつかず再び息子が借金を申し込むと「貧乏人が年越しの用意など生意気だ」と怒って追い返してしまう。ところが、(8)家路を辿る息子の前に謎の老人が現れ不思議な一本歯の下駄をプレゼントしてくれるのである。その下駄は、足に履いて一度転べば小判が一枚出てくるという有り難い宝物で、ただし欲を掻いて転び過ぎると体が小さくなってしまふから注意しろ、と老人は息子に釘をさす。(9)信( )疑ながら息子は家に帰ると母親の前で下駄を履き、ころりんとして転んでみる。すると、小判が一枚チャリンと飛び出す。もう一度転ぶと、小判がもう一枚。喜んだ母子が、出てきた小判でさっそく正月の餅を設え近所に振る舞っていると、そこに評判を聞きつけた権三がやってきて、息子の制止も聞かずに、お宝の下駄を持ち去ってしまう。家に帰った権三は「さあ、たつぷり小判を出すぞ」と張り切つて下駄を履き、座敷に広げた筵の上で、ころりん、ころりん転ぶのだが欲張つて転び過ぎたせいで体が縮み、とうとう「ごんぞう虫」という虫けらになつてしまったのだそう。

この話では結局、謎の老人の正体も、何故老人が貧しい母子に宝物を授けてくれたのかも語られていないが、貧しい者が福を授かる話が一種の報恩譚として語られる場合もある。

雪をかぶつた峠の地蔵に笠をさしかけてあげたお爺さんに地蔵が福をもたらす「笠地蔵」や、子ども達にいじめられていた亀を助けてやつたお返しに竜宮城へと誘われる「浦島太郎」などの物語がそのパターンだ。

しかし、心優しい正直者だけが常に福に授かるのかというと、そうでもない。昔話の中では、とんでもない怠け者がちやっかり幸福を手に入れることも珍しくはないのである。

仕事につかず、(11)寝てばかりいる「三年寝太郎」という男は、福の神のふりをして隣の村の長者の家に向き「これ、長者よ。隣村における三年寝太郎」という男を、この家の娘に迎えれば、家はますます繁昌まちがいなし」などとうそのお告げで長者を騙し、(12)その家の聲に収まつてしまふ。

うそつきが罰せられることなく、幸せになつて終わる物語は一見理不尽なようにも思えるが、これもまた昔話の定石から外れてはいない。弱者と強者が入れ替わり、貧しい者が富める者となる逆転劇こそ昔話の醍醐味なのである。いくら主人公が、ぐうたらで、うそつきでも、騙す相手が富める強者であるなら観客は誰も文句を言わないのだ。

福の神は気まぐれだ。正直者にも、うそつきにも。働き者にも、怠け者にも。心優しい人にも、ずるがしこいやつにも。ふと思いついたように福を授けてくれる。これは案外、昔も今も変わらぬ実感ではないだろうか。正直に、真面目に働いてさえいれば成功するというものでもない。人に優しい人間が得をするわ



けでもない。それでも……いや、それだからこそ、人間は<sup>※</sup>可<sup>あたら</sup>惜<sup>たろ</sup>夢をふくらませる。<sup>⑮</sup>次は自分が幸運を手にする番ではないかと期待を抱き続けることができるのだろう。

昔話の中で福を授かる人のパターンは様々だが、ひどい目にあう人はいつも決まっている。他人の幸福をねたみ、欲張って、ひとの真似をしようとする者だ。

一本歯の下駄を<sup>うらや</sup>羨み、自分も<sup>あやか</sup>肖<sup>あや</sup>ろうと欲を掻いて虫になった権三のように、欲張ってひと真似をする者は徹底的に<sup>いまし</sup>戒められる。

花咲か爺さんの隣のお爺さん、然り。土産の<sup>※</sup>葛籠<sup>つづら</sup>ほしさにお爺さんのお真似をして雀のお宿を訪ねていった「舌切り雀」のお婆さんも、手痛いしつぺ返しを受けることになる。

⑮

これは、働いても働いても、なかなか現状から脱却できない昔の人々が考えついた暮らしの知恵だったのかもしれない。

(富安陽子『昔話の「働き者」と「怠け者」』)

※ 報恩譚：恩返し物語。

※ 可<sup>あたら</sup>惜<sup>たろ</sup>：惜しくも。

※ 葛籠：ツヅラフジのつるを編んで作った箱形のかご。

問一 ① に当てはまる八字の言葉を文章中から抜き出して答えなさい。

問二 傍線部②「その可能性」とありますが、「その」の指示する内容を、「可能性」に続くように文章中から三十字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問三 傍線部③～⑥の「れ」の文法的説明として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二回以上使ってもかまいません。

(ア)助動詞 (イ)助動詞の一部 (ウ)動詞 (エ)動詞の一部

問四 ( ⑦ ) ・ ( ⑧ ) ・ ( ⑩ ) ・ ( ⑫ ) に当てはまる最も適当な言葉を、次の(ア)～(エ)の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(ア)とぼとぼと (イ)まんまと (ウ)ごろごろと (エ)ひっそりと

問五 傍線部⑨の( )には同じ漢字一字が当てはまります。その漢字を答えなさい。

問六 傍線部⑩「そのパターン」とありますが、「その」の指示する内容を、「パターン」に続くように文章中から二十五字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問七 傍線部⑬「理不尽」・⑭「醍醐味」の意味として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

⑬ 「理不尽」

- (ア)最後まで語り尽くせないこと
- (イ)専門的な知識がないこと
- (ウ)物事の筋道が立たないこと
- (エ)理解することが困難なこと

⑭ 「醍醐味」

- (ア)よくあるパターン
- (イ)語り継がれた真実
- (ウ)裏に隠された主題
- (エ)本当のおもしろさ

問八 傍線部⑮「次は自分が幸運を手にする番ではないかと期待を抱き続けることができる」とありますが、その理由を「うそつき」、「怠け者」、「ずるがしこいやつ」という言葉を用いて三十五字程度で答えなさい。

問九

⑯

に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- (ア)他人の幸運を羨まず、分を弁(わか)まえること
- (イ)人の道は、善を勧め悪を懲(こ)らしめること
- (ウ)加護を願って、神仏の教えを信ずること
- (エ)自分の仕事に自信を持ち、誇りに思うこと

四

次の文章は、『徒然草』の一節です。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

さしたる事なくて人のがり行くは、よからぬ事なり。用ありて行きたりとも、その事はてなば、<sup>終つたならば</sup>とく帰るべし。久しくおたる、いとむつかし。<sup>おそろわしい</sup>

人と向かひたれば、詞おほく、身もくたびれ、<sup>⑥</sup>もしづかならず。<sup>⑦</sup>よろづの事ははりて時をうつす。互ひのためやくなし。いとほしげに言はんもわろし。<sup>⑧</sup><sup>⑨</sup>

心づきなき事あらん折は、なかなかそのよしをも言ひてん。<sup>言つてしまふのがよい</sup>  
気ががしない

問一 傍線部①「ぬ」と文法的に同じものを、次の(ア)～(エ)の文の二重傍線部から選び、記号で答えなさい。

(ア)はや舟に乗れ。日も暮れぬ。

(イ)翁、竹を取ること久しくなりぬ。

(ウ)あるいは炎にまぐれてたちまちに死ぬ。

(エ)京には見えぬ鳥なれば、

問二 傍線部②「その事」の指示するものを、文章中から漢字一字で答えなさい。

問三 傍線部③「とく帰るべし」の現代語訳として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

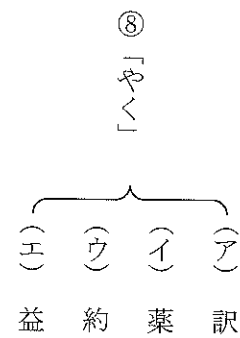
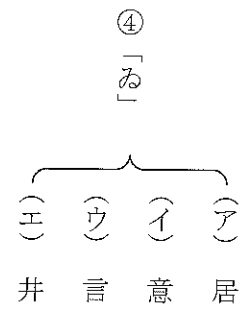
(ア)遠くに帰りなさい。

(イ)いつ帰るだろうか。

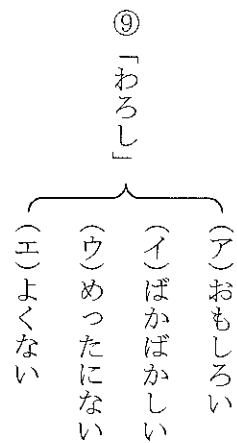
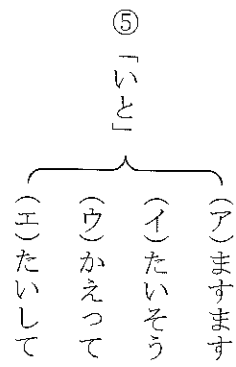
(ウ)帰ってはいけない。

(エ)早く帰るのがよい。

問四 傍線部④「ゐ」・⑧「やく」の漢字として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。



問五 傍線部⑤「いと」・⑨「わろし」の意味として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。



問六 傍線部⑥「おほく」・⑦「よろづ」を現代仮名づかいに直しなさい。

問七  に当てはまる漢字一字の言葉を答えなさい。

問八 『徒然草』の作者を次の(ア)～(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 紫式部
- (イ) 鴨長明
- (ウ) 兼好法師
- (エ) 清少納言